

アンとカルの大作せん

奄美市立朝日小学校 三年 白土 小百合

アカシヨウビンのアンはわたり鳥です。世界をとびまわり、夏は日本にもやってきます。アンはとくにあまみ大島が大好きです。

「おうい。アン、あそぼうよ。」

と声がしました。ふりむくとアンの大親友のルリカケスのカルがいました。

「カル、ちようどいいところに。」

アンがうれしそうに言いました。

「ぼくにはなやみがあるんだ。あまみ大島はいい所だよっていくら言ってもみんな『ふうん』としか言ってくれないんだ。もっとみんなにあまみ大島のよさを知ってもらいたいな。」

聞き終わるとカルが、

「なるほど。だったらあまみのいい所をぼくたちでつたえようよ。」

と言いました。さすがカルです。思いついたらすぐにこうどうします。さっそくどうすればいいかいっしょに考えはじめました。

「まずはどうやってあまみのことをつたえるか決めよ

う。」

ですがなかなかきまりません。なやんでいるときゆうにカルが、

「そうだ。森や川みんなをあつめてアイディアを出しあうのはどうだい。」

アンもそれにさんせいしました。そうときまったらみんなに知らせないといけません。二羽でチラシを書いて一けんずつまわってチラシをわたしていきます。そしてついに話し合いの日がやってきました。場所は森と川のまん中の広場です。アンとカルが早めにいくと五分くらいして三びき、次は五びきというふうにとどんどんあつまりました。その中にはとてもめずらしい生き物もきています。さっそく話し合いがいです。まず何で知らせるかを決めます。さいしよに手をぴよこつとあげたのはアマミノクロウサギです。

「わたしはポスターをつくりたいな。」

おつぎはアマミイシカワガエルがぴよんぴよんとびながら言いました。

「ぼくはチラシみたいにいっぱい作りたい。」

みんなどっちもうんうん、とうなずきます。

「ぼくはポスターがいい。」

「チラシの方がたくさん見てもらえるよ。」

「どっちもやったら。」

「ちよつとそれだいたいへんだよ。」
と、ガヤガヤさわぎます。

「ほかにアイディアはないの。」

カルが聞くと、森で一番かしこくて、世界中の生き物と話ができるコノハズクはかせが、

「ぜんぶまとめてみんながじまんしたいことを持ちよつて、動画にとろう。そしてぼくの葉っぱあネットをつかって世界中に広げよう。」

コノハズクはかせが言うのと、みんな大さんせい。三日後にじまんしたい物をもってあつまることになりました。みんな三日後が楽しみでしようがないというかんじです。そして三日たちました。今日は朝早くからもう五十グループくらい来ています。コノハズクはかせはいつのまにか二十ぴきのさつえいたいにしじを出してじゅんぴをすすめています。カルが高い木にのぼっています。

「みんな、じゅんぴはいいかな。一組十秒だよ。」

トップバッターはクロウサギの親子。自分たちの家の絵を大きな葉っぱにかいています。

「あまみはとっても住みやすくて、子どもたちもすくすく大きくなります。」

さい後に一番下の赤ちゃんがないんだけど、それを家族

みんながわらわそうとするところまでとれました。次はアマミイシカワガエルのファッションリーダー三人組です。しょう明をくらくしてスタート。

「わたしたちはいつもうつくしい。でも、この色をもっときれいに見せる場所。それはあまみ大島。」

さいごのポーズもいきなりです。どんどんつづきます。ハブ長ろう会のハブおどり。鳥たちの合しようだん。たくさんのくだものをつかったデザートを持ってきたとげネズミのお母さんたち。気がつけばまるでおまつりみたいなさわぎです。その様子を見ながらアンはカルに言いました。

「ぼくはあまみ大島の自ぜんが大すきだと思っていたけど、ここに住むみんなのえがおがすきなのかもしれない。」

「そうだね。ぼくも、今とっても楽しいよ。おじいちゃんと言っていた『ゆい』ってこのことなのかな。」

ニひきはにつこりわらい合いました。

コノハズクはかせは、動画をへんしゅうして、世界中にあまみのようすをしようかいました。

今ではあまみ大島にやってくる鳥はなんと三百しゅるいもいるそうです。